

令和7年(2025年)7月10日(木)
(公財)広島平和文化センター
平和記念資料館学芸展示課 課長:豆谷
担当:玉川
電話:242-7796 内線:5804

初代館長・長岡省吾(ながおかしょうご)氏収集資料の 目録を公開します

広島平和記念資料館初代館長・長岡省吾氏が収集し、自宅に残していた瓦などの被爆資料や調査記録等の文書資料、写真フィルム、プリントなど多数にのぼる資料が、2015(平成27)年5月12日に遺族より寄託され、その後、2017(平成29)年10月22日に寄贈に変更となりました。

今回、被爆80年、資料館開館70年を迎えるにあたり、これら資料群のうち、被爆資料と文書資料の目録を公開します。また一部資料についてはオンラインでの閲覧も可能となります。

1 公開日時

令和7年7月10日(木)より

2 場所

広島平和記念資料館平和データベース 特別コレクション
<https://hpmm-db.jp/>

3 内容

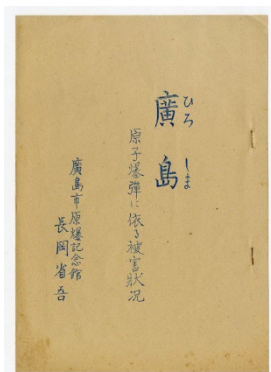
2017年に寄贈を受けた長岡資料11,893点のうち、被爆資料567件と文書資料184件の目録(PDF)。被爆資料は全件、文書資料は163件について、目録(PDF)のリンクよりオンラインでの画像閲覧が可能。

4 長岡省吾資料について

長岡氏は、墓石などに残された熱線の跡の傾斜角度や方向を測定のうえ、膨大な資料の整理・分析を行い、爆心地を推定した調査論文を発表しました。また各学校、広島市内、広島市近郊の町村から原爆死没者・被災者の名簿を集め、被爆者の実数を調査し、晩年には、コバルト60が含まれる鉄資料の収集を行い、被ばく線量の調査を行いました。被爆資料の重要性にいち早く気づき、これらの資料によって、原爆被害の実態を明らかにしようとした長岡氏が、生涯を捧げて収集した貴重な資料は、広島平和記念資料館の礎となっています。

公開資料の一部を紹介します。

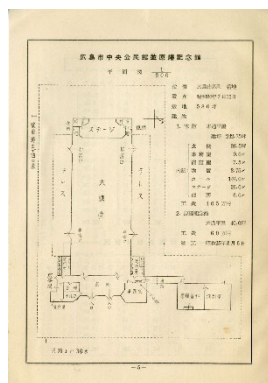
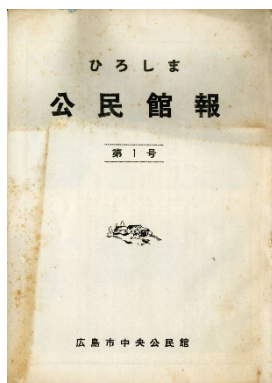
NSD0476



冊子「広島 原子爆弾に依る被害状況」(広島市原爆記念館。長岡省吾。)

原爆被害の概要について長岡氏がまとめたもの。原爆投下時の状況や黒い雨、火傷や放射線による障害などについて解説。また建造物や交通機関などの被害状況をまとめた表も掲載された。

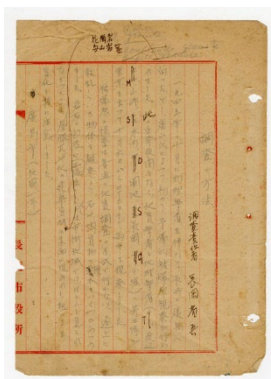
NSD0482



冊子『『ひろしま公民館報第1号』広島中央公民館』。1954年7月昭和29年10月10日発行。

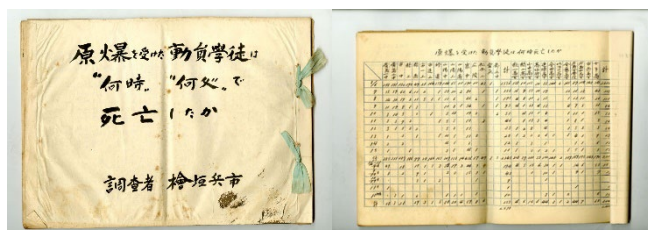
中央公民館に併設された広島平和記念資料館の前身の原爆記念館に関する記述がある。記念館の平面図が掲載され、中央公民館とは通路でつながり、2つの展示室に分かれている。

NSD0574



「調査の方法」(1958年11月)。調査責任者・長岡省吾。1945年10月に行った広島・長崎での調査について。19頁。長岡氏の専門である岩石への影響について考察。

NSD0999



「原爆を受けた動員学徒は”何時””何処”で死亡したか 調査者 檜垣兵市」。1954(昭和29)年6月11日調。1958(昭和33)年11月。42頁。

調査した檜垣兵市さんの二男・檜垣浩さん(当時15歳)は、動員学徒として小網町で建物疎開作業中に被爆。全身に大やけどを負い、その日の夜、「お父ちゃん、胸が苦しい」と言い、亡くなった。